



## 今月の言葉

藤浪牧師の今月のコラム内に紹介された平和の詩を今月の言葉として掲載します

「おばあちゃんの歌」 豊見城市立伊良波小6年・城間一步輝(いぶき)さん

毎年、ぼくと弟は慰霊の日におばあちゃんの家に行って、仏壇に手を合わせウートーをする。一年に一度だけおばあちゃんが歌う「空しゅう警報聞こえてきたら、今はぼくたち小さいから大人の言うことよく聞いてあわてないで さわがないで 落ち着いて入っていきましょう防空壕(ごう)」。五歳の時に習ったのに八十年後の今でも覚えている。笑顔で歌っているから楽しい歌だと思っていた。ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない。ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに。一年に一度だけおばあちゃんが歌う「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬくさー」泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていて。歌った後に「あの戦の時に死んでおけば良かった」と言うからぼくも泣きたくなった。沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを「艦砲射撃の食べ残し」と言うことを知って悲しくなった。おばあちゃんの家族は戦争が終わっていることも知らず防空壕に隠れていた。戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが戦車でひき殺されると思い、出て行かなかった。手榴弾(しゅりゅうだん)を壕の中に投げられおばあちゃんは左の太ももに大けがをした。うじがわいて何度も皮がはがれるからアメリカ軍の病院でけがをしていない右の太ももの皮をはいで皮ふ移植をして何とか助かった。でも、大きな傷あとが残った傷のことを誰にも言えず先生に叱られても傷が見える体育着に着替えることが出来ず、学生時代は苦しんでいた。五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い「艦砲射撃の食べ残し」と言われても生きてくれて本当に良かったと思った。おばあちゃんに生きていてくれて本当にありがとと伝えると両手でぼくのほっぺをさわって「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」生き延びたから 命がつながったんだね、とおばあちゃんが言った。八十年前の戦争でおばあちゃんは心と体に大きな傷を負った。その傷は何十年経っても消えない。人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないようにおばあちゃんから聞いた戦争の話を変え続けていく。おばあちゃんが繋(つな)いでくれた命を大切に一生懸命に生きていく。

(朝日新聞より転載)

## サマーコンサートのご案内

「音に命あり。。。姿なく生きて」DUO高瀬によるバイオリンとピアノのコンサート

8月23日土曜日 午後1時30分開場 午後2時00分開演

マキキ聖城キリスト教会にて 入場無料 自由献金 リフレッシュメントあり



2025年 8月発行

発行: MCC宣教部



# 天主閣だより

マキキ聖城キリスト教会

第351号



8月 「戦後80年に考える」 マキキ聖城キリスト教会 藤浪義孝牧師

8月15日は太平洋戦争が終結してから80年の節目にあたる。去る6月23日、沖縄全戦没者追悼式が平和記念公園で開かれ、日本各地に平和への祈りが呼び掛けられた。当日原発事故から14年経った福島にいた私は複雑な心境でラジオから流れる実況中継に聴き入った。石破総理大臣、玉城知事、日本被団協の田中代表委員、国連軍縮部門の中満事務次長が平和宣言を読み上げた。特に私の心に響いたのは平和の詩「おばあちゃんの歌」を読み上げた小学校6年生の城間一步輝さんだった。その詩は、1日にして20万人を超える人々が亡くなった沖縄戦の凄まじい惨状を思い起こさせた。戦争は実に生存者や子孫に精神的な深い傷を残す。今も癒えない戦争の惨しさに、平和の尊さを再認識しなければならぬと考えさせられた。

マンハッタン計画によって核開発が急がれ、1945年7月16日原子爆弾の威力が評価された。翌月6日午前8時15分広島市に、その3日後の午前11時2分長崎市に原子爆弾が投下された。恐るべき大量破壊兵器が二度にわたって使用された。「戦争を終わらせるためにやむを得なかった」と原爆投下正当化を主張した当時のハリー・トルーマン大統領と原爆開発における自らの役割を深く後悔した「原爆の父」ロバート・オッペンハイマーの相違にずれを感じる。原爆投下によってもたらされた甚大な被害に核の危険性が叫ばれる中、先進諸国の代表諸国は核開発廃止ではなく、更なる核開発を挑発した。核兵器廃絶を望む約150カ国に対して、新たな破壊力を現実化する核兵器開発を進める国々によって、現在、全世界は非常に危険なところに置かれている。

近日上映された映画「ミッション・インポッシブル」を鑑賞した。この映画はAIと核兵器を結びつけた現実味を帯びた作品だった。今にも起こり得る問題であること考えさせられた。AIの急速な発展でChat GPTが広く活用されるようになったが、それにはまった人の中には重度の強迫観念に取りつかれ、破壊的な結果を招いた者も出ている。急速発展するAIに頼ろうとする人間への警告のように思う。

平和への願いがかなえられるためには、「世界が平和になるように」と願うだけでは世界は変わらないことを意識する必要がある。私たち一人一人が考え方を变える必要がある。独りよがりな考え方を变え、万物の創造主の存在を認め、その権威の下に身を置き、何よりも創造主を愛することと隣人を尊重し大事にする隣人愛というイメージを私たちの中に作っていかねばならない。そのためには、聖書から人間の本質をしっかりと学び理解し、自分を知り、内に潜む権力欲を挑発しないように、自己尊重に基づく内面的な価値観と他者からの評価に依存する外面的

な価値観を理解しバランスをとる必要がある。さもなければ、権力志向は深まり、権力の獲得へと駆り立て、その権力をより強力なものにしたいという願望に繋がり、他者を落として自分を上げ自己利益に走る。それによって人間関係の分裂が広がり、争いにまで発展する。邪魔者はどんなことをしてもつづす権力欲にとりつかれている限り、どれだけ核廃絶運動をしても、核開発競争はなくなる。

創造主なる神が人をお造りになられた過程が創世記に啓示されている。善悪を知る一本の木は創造主なる神の権威と主権の象徴であった。しかし、「神のようになれる」との神の敵対者の声に騙された人は、神の権威と主権を軽視するというとつもない大きな過ちを犯した。神に背いたその瞬間から事態は一転し、夫婦間に不和、家庭には分裂が起こり、権力争いが絶え間なく巻き起こった。神抜きの世界は実に虚しいことを世界歴史は語り続けてきた。

創造主なる神を知らぬ人よ。夜空を眺めて見よ。大自然を見よ。地に生える草花を見よ。土の中でうめく虫を見よ。ミクロな世界現象を観察せよ。無意識で息をしている生き物を観察して見よ。多様性と一致が同時に存在することに驚け。創造主なる神がおられることを認めよ。このお方を畏れよ。もしあなたが、このお方を本気で探し求めるならば、あなたは必ず報われると聖書は教える。

「剣を取るものは、剣によって滅びる」と仰せられたイエスキリストを本気で信じよ。この真理は、自分の背きの罪に酔うものは、その罪によって滅びることを暗示している。創造主なる神にひれ伏すまで、人間の権力欲は治らない。

キリストは、世の終わりの前に起こるべきことを事前に弟子達に繰り返し教えられた。それゆえに、人間が造った物を拝んでいる人よ。あなたの考え方を換え、万物の創造主なる神がおられることを認めよ。このお方だけを拝み仕えよ。

人間の背きの罪の代価を支払うためにこの世に人間となってこられた神の御子イエスキリストを信じる人よ。堅く信仰に立って、主イエスが警告されたように霊的に目を覚まし、この世に妥協せず、神を愛し、隣人を愛することを日々の生活で実行せよ。神の国をこの世にあらわすために存在する平和の君なる主イエスキリストの教会の一致を熱心に保ち、良き知らせを語り伝えることがこの時代に生きる私たちに責務であることを今一度深く考えさせられる。

人の子は、思いがけないときに、突然来られるから。(マタイの福音書24章4節)



## 今月の証

「ハワイからワイオミング」

金田 将行



私が、マキキのメンバーになってから、はや、三ヶ月が経ちました。私は、夢を持って、ハワイに移住したものの、生活の行き詰まりを感じる事が多く、毎日神様との対話だけが、私の逃げ場だったように思います。その日々の中で気をつかさされた事は、「自分の考え、自分の思い通りには、何一つ行く事はない」と言う事でした。そして、日々やってくる艱難辛苦は、私の力では解決できなくて、私は、ただ祈るだけでした。皆さまも、ご承知の事とは思いますが、マキキのメンバーになって、すぐに私は、ワイオミングに移住しました。いろいろな可能性を模索する中で、この選択肢は、気が抜けるくらい早く進行しました。また、不安に思っていた事も、その過程の中で、まるで、「糶殻」のように脆弱に飛んでいきました。

ハワイ最後の日に、藤浪先生とお食事を一緒したのですが、「神様のお決めになられた事は、すんなりいきます。」とおっしゃっていましたが、まさに、そのとおりだと思いました。ワイオミングでの生活は、今までの何処の土地とも違い、不便な中にも、洗練された豊かさが、あると思います。

ワイオミングに来て始めた趣味が、マウンテンバイクなのですが、山に分け入るたびに、日々成長している草木、昆虫、日差しの違いによる、清流の水面の表情で、毎回違うものを見ている様です。まだまだ、私の知らない世界を神様が教えてくれています。我々が無理と考えている事も、浅はかな知恵ではないでしょうか？また、我々が、出来ると考えている事も、浅はかな知恵なのでしょう。今もこうして、マキキチャーチと繋がっている事が、私には、神様の偉大さの証明であると思います。そして、ハワイの土地が、確実に、私の信仰心を成長させてくれました。

中野先生が、メッセージでおっしゃった様に、我々キリスト者は、聖書の知識があるので、必ず救われる事を知っており、どんな艱難辛苦にも勝つ事がわかっているのです。艱難辛苦は、我々に指一本ふれられません。

それは、我々の想像を超える神様のストーリーのキャストとして生かされているからです。自分で書いた筋書きは、何も面白くないとわかりました。シャローム。